

みたか環境ひろば 第82号

令和5年1月1日号



ふじみまつりで環境イベントを開催しました！



第10回ふじみまつりが、11月20日グリーンプラザふじみで開催されました。寒くいつ雨が降るかわからない様なお天気でしたが、多くの方が足を運んでくださいました。

私たちは第3回目の環境講座として、①トヨタモビリティ東京による燃料電池自動車MIRAIの電源供給の様子を実演し、環境面及び防災面への貢献について学ぶ。②三鷹市産のみつろうを使用し、環境にやさしい

★三鷹産のみつろうを使ったみつろうラップ★

電気自動車から供給。③地球温暖化の原因であるCO₂を減らすために私

たちにできることを考える地球温暖化クイズ。④自転車の人力発電で何ワット電気が作れるかを挑戦する。⑤みんなで考えようみたかのSDGsのアンケートを行いました。

小さな子どもから大人まで、楽しみながら学べる有意義な環境イベントになりました。また、三鷹市の未来の環境について意見を伺うアンケートでは、三鷹市は緑が多い。野菜畑が多い。再生可能エネルギーを増やしてクリーンな循環型社会を望んでいる声が多いようでした。みたかのSDGsについては、第4回の環境講座でさらに深めて行く予定です。（藤田）



★委員手作りの地球温暖化クイズ★



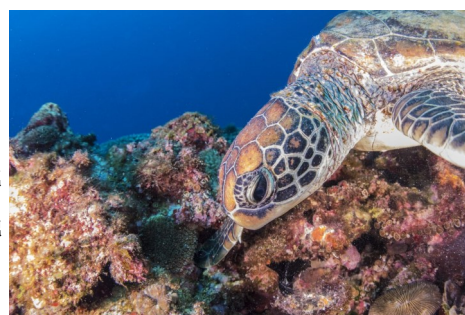
地球温暖化防止は待ったなし

昨年の4月（みたか環境ひろば第79号）に気候変動の講座について、小文を“気候変動の影響について様々勉強しました”と書きました。すると“様々とは何だ！具体的に書くべし”とのお叱りを受けました。そこでほんの一部ですが、具体的なところを紹介します。

例えば、海面上昇ですが、2050年には最悪0.4mと予想されています。膝の高さ程度かと侮るわけにはいきません。海面が0.3m上昇すると日本の砂浜の半分は消失してしまいます。海水温上昇、海面上昇によって日本では集中豪雨の最多雨量が年々更新され、洪水被害は増え続けていますが、世界規模で見ると被害の増大をもたらしています。

当然、生物に与える影響も甚大です。ホッキョクグマが絶滅に瀕していることはよく知られていますが、目立たないものもあります。アオウミガメの卵は孵化するときの温度が30℃以上だと、ほとんどメスになってしまいます。それでもカメは同じ砂浜で産卵し続けます。ウミガメの減少理由は多様です。浮遊ビニールの捕食によるとも考えられます。いずれにしろ、人間活動が原因のようです。

国際的な自然保護団体である国際自然保護連合によると、現在、絶滅危惧種は動植物合わせて4万種以上です。6500万年前以来の生物絶滅に近いと言われています。（佐野）



みたかの魅力新発見！

大阪出身の私たち夫婦が三鷹市民となつてはや3年。衣食住の便利さがあ
りながら、落ち着いた、優しい雰囲気に惹かれてこの街を選び、心地よい毎
日を過ごしています。

先日、家から少し離れた大沢地域を散策してみました。大通りから少し入
ると、雑木林のそばを野川が緩やかに流れており、冬支度をする水鳥や、思
い思いに散歩を楽しむ人々の姿がありました。単なる自然風景ではなく、古
民家や水車といった昔ながらの景観が残されており、そこに暮らす人々の生
活と文化が垣間見えました。



★大沢地域の野川と水車（右奥）★

普段感じている心地よさ、そのルーツはこういうところにあるのだろうと思いつつ、みたかの新たな魅
力を発見したひとときでした。（橋本）

老人の取り越し苦労

今の世で問題になっている地球温暖化についていえば、世界共通の目標を掲げ、各国が自国のCO₂削減目
標を設定し、地球温暖化対策に向けて取り組んでいる。これとは別に世界の一部では戦争が起こり、ロ
ケット砲弾による火災等が起きたり、森林等の自然火災などでCO₂が増えるのではないかと考えると心配は
増加する。CO₂排出量の増加により温暖化が進み、南極や南極海の氷や氷山の一角が溶けて海に流れ込み、
南の島々で生活している人々は、防波堤を少しずつ積み上げ、高めに高めにして水没を防いでいるようだ
が、急激な水位の上昇には対応がかなり難しいし、根本的な解決策にもなっていない。CO₂は海水によく溶



けるが、空気中での成分の割合※は少ないので、これが出てくるようになると地球に多く
の変化が表れるようになると思う。

これが私、老人の取り越し苦労である。せめて、戦争によるCO₂の増加は人間同士である
から、話し合いで収めることはできないものかと期待しているものである。（鈴木）

※一般に空気の成分の割合は窒素約78%、酸素約21%、その他1%とされる。

第4回環境連続講座「エコロジカル・フットプリントー地球1個分で暮らすためにー」を開催しました！

令和4年12月10日、NPO法人エコロジカル・フットプリント・ジャパン理事の清野
比咲子氏をお迎えし、人間の活動が地球環境にかける「負荷」の大きさを示すエコロジカ
ル・フットプリントについてご講演いただきました。

講座の後半には、あなたが考える三鷹市の未来の環境」をテーマに、「三鷹市の環境の良
いところ」や「三鷹市の未来の環境」について、参加者同士で意見交換（グループディス
カッション）を行い、共有しました。



★当日の様子★

編集後記

FIFAワールドカップが始まり、全世界が熱狂しているなか日本
サポーターの試合後のごみ拾いが称賛されています。試合の勝敗
に関係なくごみ拾いをする姿に同じ日本人として誇りに思います
し、この清掃活動が他国のサポーターにも波及しているという
ニュースを見ました。日本人の取り組みが世界に普及していくの
は非常に喜ばしい事ですし、模範になるように市内にごみが落ち
ていたら拾うなど、日々の日常で取り組んでいきたいと思いま
す。（打矢）

次の発行は令和5年1月の予定です。

発行：みたか環境活動推進会議
（愛称 みんなの環境）

連絡先：三鷹市生活環境部環境政策課
電話 0422-29-9612

E-mail:kankyo@city.mitaka.lg.jp

本誌は、市役所、市政窓口、図書館、
コミセンや市のHPから入手できます。